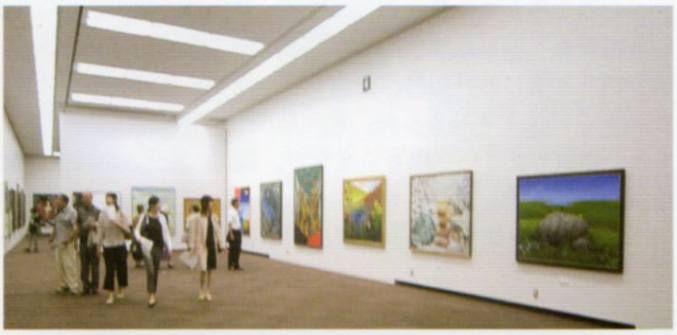
女流画家協会 会報

vol.6
2018
(平成30年)
5/29

事務所（70,71 回展）を終えて

前事務所代表　中村智恵美



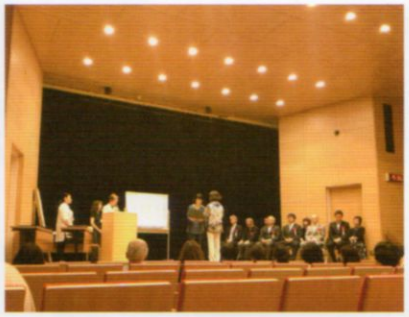
会場風景

70 回女流画家協会展では多くの方のご協力を得て無事に記念展を終える事が出来ました。特別講演として「大村賞」「韮崎美術館賞」をご提賞頂いている、ノーベル賞を受賞されたばかりの大村智先生がお忙しい中初日に講演を引受けて頂けた事は協会として大変光栄な事でした。また記念展のみ製作しておりました画集を毎年作成する事になった事も新しい歴史の始まりとなりました。

71 回展では、会場を都美術館の顔とも言うべき地階 5 棟全てと一階 1 棟とし 5 月末から 6 月初旬にかけての約 8 日間は女流画家協会展一色とも見える展示となりました。また、これまで女流画家協会展に受賞一度でも優秀な作品を発表している会友の方々から 32 名を選抜し新会員推挙と致しました。さらに優秀な会員の中から 16 名を選出し委員に推挙しました。これは女流画家協会の「芸術を志す若い女流画家に、美術に対する明るい展望を示し、新しい才能を発掘し育成する事が日本美術界に於ける当会の役割であり目的である」と結成時（昭和 22 年）に掲げた志を尊重し継承したものです。また昨年は石川県立美術館（金沢市）に於いて金沢展を開催し多くの北陸地方の方々にご来場いただきました。更に、地方巡回展として毎年 11 月に開催しております相模原展では会場を提供して頂く等のご協力を頂いております相模原市のご関係者の皆様にもこの場をお借りしお礼申し上げます。女流画家協会展は長年の歴史を踏まえながらも時代に即し、新時代にも柔軟に対応出来る公募団体として発展する事を願っております。

会場入口

新人室



都美術館講堂にて授賞式

新事務所挨拶

事務所代表　佐々木里加

女流画家協会は女性にとって実に心地のいい団体です。家庭や周囲には言えなくても、ここでは皆女性同士で正直にものが言える。皆作品でも言いたいことを表現しますから、女性にとって、とても良い自己解放の場となっています。作風も画材もさまざまで実に自由。他の女性たちの生き方や考え方も学び合え、理解し合える。非常に楽しいですから、興味本位でも良いので一度出品したり、また展覧会場にいらして、首から札をかけている当会委員にぜひお声かけください。お待ちしています。

会計（支出）　伊藤育子

自由美術の会員、一陽会の会員の方から女流画家協会の会員になれば一流だからそれを目指して頑張れと言われ 20 年。この間、仕事の都合、不出品の数年があったにもかかわらず、復帰を温かく迎えてくださった女流画家協会のために、恩返しのつもりでがんばります。よろしくお願いいたします。

会計（収入）　黒沢裕子

事務所会計（収入）の黒沢裕子です。女流画家協会の皆様が、楽しく会に参加して頂けますように、会計の仕事を頑張りたいと思っています、どうぞよろしくお願いいたします。

女流画家協会2017金沢展

「女流画家協会 2017 金沢展」が 7 月 20 日［木］－ 24 日［月］の 5 日間、石川県立美術館本館一階第 7、8、9 展示室で開催されました。委員を中心として会員、一般受賞者全員、北陸四県［福井，石川、富山、新潟］の出品者、計 105 点が展示されました。24 年ぶりの開催です。日本美術界を代表する女性画家が会派を超えて在籍する女流展は、写実的な絵画から自由な発想に基づいた心象風景を表現した抽象的な作品までバラエテイに富む大作が並び、多くの来場者がありました。初日、会場でギャラリートークが行なわれましたが、参加者が多くビックリしました。地元新聞社やテレビ局がとり上げてくれました。また、感激したという趣旨の文章が、新聞の投書欄に載ったこともありました。嬉しいことです。北陸 3 県（福井、石川、富山）の１７名が協力して 5 日間手伝うことにより顔なじみになり、親睦を深めるよい機会ともなりました。

（桑野幾子）

会場入口

ギャラリートーク

会場風景

懇親会

＊会期前日の 7 月 19 日と初日翌日の 21 日は地元の北國新聞に 2 度にわたって、写真入りで紹介され、また、8 月 16 日には地元の洋画家の方の投稿で大変好意的なご意見を寄せて頂き、女流画家協会にとっては嬉しい限りです。

女流画家協会2017相模原展

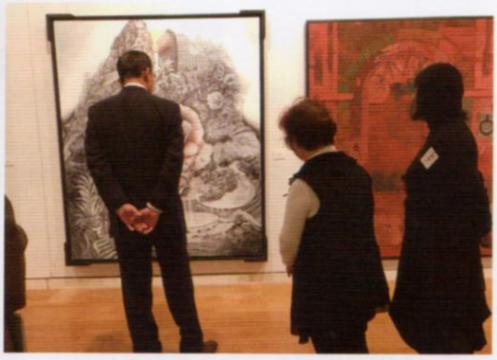
2014 年より毎年秋に行われている女流画家協会相模原展も、2017 年で 4 回展となりました。

委員 19 名、会員 40 名の合計 59 名の出品で 2017 年 11 月 3 日～ 14 日までの 12 日間の会期で、相模原市、相模原芸術協会のご協力を得て、相模原市民ギャラリーにて開催されました。

会期中 (3 日夕) には展示室にて、多くの来賓の方々のご出席の元でオープニングレセプションが行われ、参加者相互の交流を深めることができました。又 5 日のギャラリートークには出品者も多数参加して、意義あるものとなりました。

市民ギャラリー学芸員によるギャラリートーク

会場風景


相模原市長とのギャラリートーク

※相模原展 (2018 年 11 月 約 50 点有志展示) は中止となりました。どうぞ東京都美術館での本展 (2018 年 5 ～ 6 月 約 620 点展示) をご堪能下さいませ。

受賞者の声

《女流画家協会賞》

岡田　豊子　（会員）

この度、賞を戴き身に余る光栄に感じております。テーマは、一貫して、「生命の繋り」です。モチーフは始めの頃は子供でしたが、今ではまつぼっくりを描いています。変わりゆく自然、変わらない自然を肌から感じ、心を通して追求してきました、これからもどの様に変容して行くか、見えませんが、この「生命の繋り」が、今はこの福岡の地で制作してゆきます。

「時から代へ'～17'」
100S

「メモリー」
100S

《大村文子記念賞》

沼田　愛実　（新会員）

この度は受賞させていただき、心から嬉しく思っております。現在は、時間と日常というテーマをもとに、物語性のある静物画を制作しています。静かな室内で、心地よく安定感のある構図と、クラシックとモダンが融合したような雰囲気を持つ作品を目指しています。今回の受賞を励みに、今後更に良い作品を制作できるよう精進して参ります。

「Vicissitude」
190 × 161

《損保ジャパン日本興亜美術財団賞》

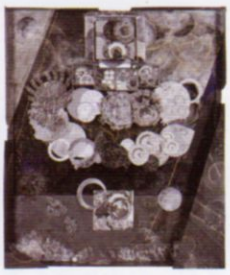
大前　美登利　（新委員）

この度は、損保ジャパン日本興亜美術財団賞を賜り誠にありがとうございました。ひとえにご指導応援してくださる皆様のおかげと感謝申しあげます。新しい作品にとりかかる度、迷いと思うようにいかない悩みと僅かな希望との中で右往左往し制作していますがこれを励みにいっそう精進してまいります。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

《マツダ A 賞》

江口　薫　（新会員）

何億光年、煌めく星々。沈黙（しじま）の闇に仰げば人の時など僅か一瞬の刻。太陽の陰、月の満ち欠けは古今生活の標。神話や星占いにロマンも。天空へ憧憬・畏敬が主題。受賞賜り至福に逸る心で"銀河の旅"続けます。半立体奥行き 15。木材、パネル、壁紙、絵の具、銀箔、コピー等、素材種々、大胆に繊細にドラマ仕掛けるべく、試行錯誤を楽しんでいます。



「Journey to the Galaxy Ⅰ」
194 × 162

《上野の森美術館賞》

伊東　洋子　（会員）

私は、黒と白のモノクロームの絵を描いてきた。描写に使う黒は初期は木炭であったが、アクリル絵具、墨、コンテと変化している。普段は、イメージを組み立て構図を意図しているが、今回は心中に潜む他方の空間が反映し、心象風景となって表出したような気がする。これからも、さまざまな色合を含む黒と、白のコントラストの絵を描き続けたい。

「カオスの位相 '17-1」
100S

「祈りの輪」
100S

《リキテックス賞》

南雲　まき　（新会員）

この度、会員推挙を頂戴しました南雲まきと申します。女流画家協会展の先生方の作品は勿論のことですが、ご活躍を拝見して、ずっと、会派を越えて協力し、切磋琢磨しながらご活躍されている姿に憧れておりました。この度、その仲間に加えて頂けることを大変光栄に思い、気持ちを新たに、今後益々、精進していきたいと存じます。

「静かな刻」
130F

《韮崎大村美術館賞》

久保　恵美子　（会員）

今回はとても素敵な賞を頂きありがとうございました。作品は１才の頃に父親を亡くし顔は写真でしかわからなく、私達三姉妹を天国から見守ってくれていると信じ描いています。巣の中の卵（私達姉妹）と帽子（父）と羽（見守）を画面に入れ静物を構成しているのです。絵を描けるのも家族のお陰と感謝し、これからも頑張りたいと思っています。

《マルオカ賞》

菊池　史津　（新会員）

果実の色や形の美しさに魅せられてモチーフにしています。名前の由来や人間との関わり果実の気持ちを想像したりしてイメージを膨らませ絵にしてます。今回のドラゴンフルーツは最近スーパーで見掛けるようになりいつの間に入り込んで来たのだろうかといった思いを絵にしました。今暫くは果実の魅力を描いていきたいと思います。

「飛来」
100S

《岡田　節子賞》

高橋　恭子　（新委員）

「言伝て」は、あの世とこの世の間で、伝言を司る女性を描きました。是非言いたかった事を伝て、あちらの世界からの伝言てを持って来てくれる。邪気の無い純心な、救いを求める人々の気持ちを受け止めてくれる。菩薩にも観音にも通じる救いの姿です。この度は受賞させていただき、心より感謝致します。これから先の力をいただきました。

「言伝て」
130F

「生命３」
130F

《ホルベイン賞》

中間　淑子　（新会員）

この度は受賞させていただきありがとうございます。ベランダで育てていたグリーンピースの葉脈やつるに強い生命力や美を感じ絵画に表現したくなりました。私の場合、絵画制作は画面構成に多くの時間を取られます。これが苦しみであり楽しみでもあり、制作の醍醐味とも言えます。当分、その味はやめられません。

女流画家協会研究部

会場：東京都美術館2F　文化棟スタジオ
毎月1回金曜日に実施（＊都合により他の曜日になることもあります）

この1年間、研究会を担当させて頂き、この会に通って来られる皆さんの熱意に改めて驚かされました。1年間10回の参加者の総人数は388名、1回平均39名近い方々で、東京都美術館の会議室が手狭になるほどでした。又、毎月担当講師として来られる委員の先生方には、熱心に指導して頂きまして大変有難いです。そのお蔭か参加されている方々に、作品の見方にもそれなりにより進歩があったと思います。このような会が存在する事は当協会にとって貴重なことだと思います。これも今までの諸先輩が研究会を大切に育ててきたおかげです。昨年度はその前の年よりも出席人数も増え、より一層充実した研究会にしなければいけないと責任を感じています。　（堀岡正子）

研究会
会場風景

71回展ワークショップ開催

6月2日（金）1時～都美館2Fスタジオにて開催されました。参加者は会員9名、出品者22名、その他13名と定員35名のところ44名の参加で、何人かお断りする状態で、熱気に溢れたものになりました。

各自、自由に持ち寄った画材とこちらで用意した物、マツダ油絵具から提供された絵の具等を使って半立体のオブジェを2時間ほどで制作し、その後マイクを手に自由に自作を語っていただきました。参加してよかった、又参加したいなどの声を頂きました。

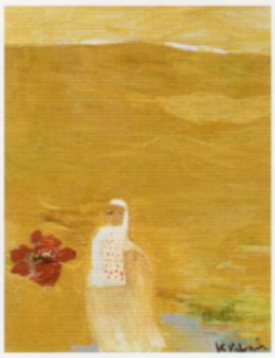
（担当：吉江麗子、山内恵美子、松本恵美）

ワーウショップ会場風景

＊72回展ワークショップ　6月1日（金）PM1:00～ テーマ・ボックスアート「小さな箱に大きな宇宙を」 提供／松田油絵具（株）

2017年度新委員

生駒 幸子	手塚 廣子
石田 ひろ子	照山 ひさ子
大前 美登利	徳中 壽子
笹森 文	中嶋 しい
杉本 弘子	西宮 房子
須藤 美保	野中 伊久枝
髙橋 恭子	村本 千洲子
高増 千晶	森山 陽子



HAKAI 50F
郡桂子
第71回女流画家協会展

宙　そら　Cosmic No.5 20F
山寺 重子
第71回女流画家協会展

追悼
心よりお悔やみ申し上げます
郡　桂子委員
山寺 重子委員（八十七歳）
二〇一七年十一月二十六日 逝去

編集後記　Vol.6より会報係を平川、児玉さんと3名で担当することになりました。女流にとって魅力ある紙面になるよう3人のチームワークで頑張ります。紙面に対するご要望、等ありましたら、会報係までお知らせください。何事も不慣れですので、今後とも皆様のご協力宜しくお願い致します。（松本）

女流画家協会 会報 vol.6-2018.5/29
発行日：2018年5月29日
発行：女流画家協会
編集委員：松本恵美、平川きみ子、児玉沙矢華

女流画家協会 事務所
代表 佐々木 里加
〒171-0022　東京都豊島区南池袋3-7-8-1901
TEL&FAX：03-3961-1100
http://www.joryugakakyokai.com